

むくげの会は1971年1月発足、今年なんと47周年となる。おそろしいものだ。

ホームページ掲載の「むくげの会略史」の時代区分は、以下のようになっている。時代区分の命名は、前半は飛田、後半は山根さんだ。

【草創期】1971～1974

【大躍進期】1975～1981

【円熟期】1982～1987

【倦怠期ないし第二次躍進期】1987～1994

【震災ショック+第2期黄金期?】1995～2005

【海外飛躍期+むくげ旅行グループ化期】2006～現在

だいたいイメージをつかんでいただけたらどうか。

今回、私の主観にもとづきむくげの会47年間をふりかえってみようと思う。まずは、ゲストディ。

■ ゲストディ

実に多くの多彩な方が来てくださったが、現ソウル市長・朴元淳さんも来てくださっている。が、私以外の誰もそのことを覚えていない。まったくもって嘆かわしい……。それは、2002.11.7、第140回のゲストディだ。当時参与連帯の代表?として落選運動に関わっていた朴さんだ。私は朴さんにそれ以前から面識があった。私が富坂キリスト教センターの朝鮮問題研究会のメンバーだったことがあるが、そのメンバーの金聖俊さんの紹介でお会いしたことがあったのだ。その後、朴さんがフルブライト奨学金?の調査活動で日本の市民運動調査にこられたとき私が関西、中国、四国の市民グループを紹介したことがある。その調査は、韓国で出版されその一部は日本でも翻訳出版された。『韓国民運動家のまなざし—日本社会の希望を求めて』(2003/8、参加型システム研究所)だ。その翻訳本には収録されていないが、韓国語版では、「神戸に行けば飛田さんがいるから安心だ。飛田は、韓国語読みでは「ビジョン」、それは英語のVisionと同じだ」と書いてくださっている。ソウル市長になられてから、残念ながらまだお目にかかっていない。

第1回のゲストディは、1984.6.26、当時毎日新聞の記者でセンター朝鮮語講座の生徒だった森行雄さんだ。戸籍をたどると自分の名前が「金」だったことたことが分かった森さんは自身のルーツを調べた。そして豊臣秀吉の時に鹿児島県「苗代川」に連れてこられた陶工の子孫であることを突き止めたのだ。

むくげの会のホームページには、山根さん作成のゲストディの記録がある。第278回が、2016.11.15の小笠原博毅さん(神戸大学大学院教授)の「サッカーと差別」だ。今も月2回開催の例会(第1、3火曜日19:00、学生センター)は、以前は、時々ゲストディで普通は会員の研究発表だったが、現在では完全に逆転している。合評会をのぞくとほとんどゲストディと言っても過言ではない。参加費無料、ぜひ、ご参加ください。案内はむくげメーリングリストのみ。参加希望の方は、飛田 hida@ksyc.jp まで。

紹介したらきりがながい、やはり書きたい。

●梶村秀樹さん、19回、1986/07/15、「よもやま話」

●ガバン・マコーマックさん 22回、1987/03/03、「よもやま話」

●大村益夫さん、23回、1987/04/27、「延辺のことなど」

●鄭炳浩さん、38回、1988/05/10、「在米韓国人の問題について」

●白承豪さん、85回、1992/03/17、「弁護士への道」

●崔元植さん、100回、1993/10/15、「近代文学について」

●田軍さん李順子さん、109回、1994/09/06、「ハルピンから日本に来て」

●朴菴熙さん、156回、2003/05/06、「李恩成『許浚』を翻訳して」

●竹国康友さん、177回、2006/03/07、「韓国温泉の本を出して・北朝鮮、金剛山温泉のことなど」

●成川彩、178回、2006/04/04、「司法通訳にたずさわって」

●趙誠倫さん、183回、2006/10/17、「現代韓国の民間信仰」

●田恩伊さん、189回、2007/06/19、「韓国の現在」(1995/01/24開催予定のゲストディが地震で中止。再留学で実現)

●韓昌道さん、215回、2009/09/15、「朝鮮半島の昆虫」

●李正熙さん、239回、2013/02/19、「朝鮮華僑と近代東アジア」

●韓栄恵さん、244回、2013/06/18、「韓国の「こどもの日」について」

●李成権さん、250回、2014/03/18、「日韓関係について」などなど。やはりホームページをみていただくしかない。

おそらく一番多いゲストは、神戸大学の韓国人留学生だろう。紹介を受けたり学生センターを訪ねて来てくれたりした留学生だ。センターでお話しして話面白ければ「あとはゲストディでしゃべって!」ということにしてみんなで聞くことにしたの

だ。ゲストには、謝礼 5000 円、終了後の懇親会無料、通信購読料 1 年分 1800 円がおみやげだ。いつでも募集しているので自薦/他薦を問わずに募集中だ。よろしくお願ひしたい。ゲストディは基本的に日本語で行われるが、中には留学してすぐのゲストが、「韓国語で 1 時間しゃべってスッキリした」ということもあった。またゲストディは別名「耳学問の会」、例えば台湾の専門家をお呼びして朝鮮のことを考えながら聞いていたということもあった。ゲストに招かれて会員に引きずり込まれたという故・尹達世さんや深田晃二さんのような例もある。ゲストのコリアンと日本人の割合は半々ぐらいか、コリアンの方が少し多いという感じか。

■合宿の過激化

よく学び、よく遊ぶむくげの会は、よく合宿なるものをしてしている。1974 年 8 月には淡路島で合宿をした。沖で泳いでいるときに臨時ニュースが流れ、それが朴大統領狙撃事件だった。いっしょに来ていた在日コリアンの A さんが即「文世光ではないか」と言っていたのには、その後本当にびっくりした。(この事件については高祐二『われ、大統領を撃てり—在日韓国人青年・文世光と朴正熙狙撃事件—』(2016.10、花伝社) 参照)

翌 1975 年は 4 月に赤目 48 滝、8 月に中津川と梶村秀樹氏実家訪問、年に 3 度も……。その後は、琵琶湖で夏季合宿をしていることが多い。1988 年から会員の K さんの六甲山別荘などで合宿をしている。2000 年城崎、2001 年宮津、2002 年和歌山湯浅、2003 年嵐山、2004 年淡路岩屋、2005 年長浜までは普通の合宿だが、2006 年 1 月の韓国釜山合宿からおかしく? なってきた。会費が 5000 円/月(現在は 4000 円)という高額の会費のために一部には「政治結社のような」揶揄されることもあるむくげの会はその資金力で海外に進出したのである。会費を旅行積立金と勘違いするメンバーが増えてきたのである。



2005 年琵琶湖合宿

でも、国内と韓国を交互にするほどの節度は守っていた。2007 年 1 月ソウル、2008 年 2 月奈良、2009 年 2 月善通寺と別子銅山、2010 年 2 月済州島である。しかし、2011 年から歯止めがきかなくなって毎年韓国に出かけるようになった。もはや、会の財政運営のために会費の旅費への転用はストップである。

2011 年 2 月韓国浦項、2012 年 3 月全州、2013 年 4 月慶州、2014 年 4 月木浦、2015 年 4 月群山、そして 2016 年 4 月江華島である。正月合宿がだんだんと遅くなっているのは正月の韓国が寒いことメンバーにリタイヤー組が増えたことによる。今年 2017 年は 6 月に「九里」(京畿道) である。会員中心の合宿の時代には例会的なことも開いており、「昨年の反省と今年の抱負」というコーナーがあった。「昨年は〇〇だった、今年は▽▽する」と決意表明的なこともしていたが、その決意がなかなか実現しないことと、合宿の評判がすこぶるよく、参加者が会員数の倍近くになったのでその決意表明のコーナーもなくなり、飲んでばっかりになった。

■イベント、「血と海」上映、講演会開催など

おそらく最大のイベントは 1974 年 3 月の北朝鮮映画「血の海」上映会だと思う。県民会館に 500 人の方が来てくださった。私たちがびっくりした。

ゲストディもない時期には、講演会も結構開催している。

1971 年 3 月、姜在彦さん

1972 年 3 月、金石範さん

1974 年 6 月、佐藤勝巳さん

1975 年 3 月、映画「ある自警団員の運命」

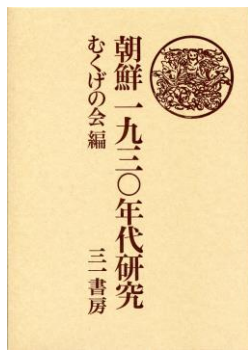
1977 年 3 月、「血の海」再上映

その後、先のゲストディがスタート(1984.6)したためか?、講演会などは開催していない。

ただ、1993 年 9 月に中国延辺より柳東浩氏を招請したのも大きなイベントだといえる。

また後述の出版とも関連するが 10 周年、20 周年などの節目の年にも記念イベントを開いている。

10 周年の 1982 年には、特別なことをしていないが、「ビデオ購入」がある。当時、高価だったビデオ一式(40 万円?) を会で購入したのだ。学生センター朝鮮語講座の主力であった私たちは朝鮮語劇にも出演していたがそれを記録するために購入したのである。堀内さんの独断先行の批判もあったが、そのビデオ機がその後のセンターライブラリーの元となったのである。学芸会の映像ももちろんすべて残っている。もし、ご希望の方がおられれば DVD にコピーしてさしあげる。



10周年は1981年1月。当時のむくげ通信をみても特別な行事もない。編集後記にもそれに関して一言もない。が、当時は今以上に研究熱心だったようで、1年後の1982年10月に「10周年記念論文集」としてむくげの会編『朝鮮一九三〇年代研究』（三一書房）を発行している。姜在彦先生に跋文をいただいている。あるときソウルの本屋でそっくりのコピー本（5ミリほど大きい）を見つけてびっくりしたことがある。当時の韓国で1930年代の左翼運動を研究することなどタブーな時代で、それに関する論文もあり韓国でも注目されたのかもしれない。

1991年の20周年では、5月に兵庫朝鮮関係研究会がお祝いの昭和池ハイキングと焼肉の会を開いてくださった。昭和池には「工事犠牲者慰霊塔」（1934年3月建立、7名の犠牲者のうち4名が朝鮮人）があるが、友井公一さん（昨年死亡）が発見されたのを機に開かれたのであった。

2001年の30周年には、むくげの会編『新コリア百科—歴史・社会・経済・文化』（明石書店）を出版した。530頁の大部なものでそのまま枕になるほどのもの。基本的に通信にかいた論文を再録するというものだった。出版にあたって手直しを真面目にするとなかなか発行に行きつかない。締め切り日と分量を決めたことで成功して、無事出版にこぎつけた。加筆訂正をしたものもあればそのまま出したものもある。私はもちろん？後者だ。

40周年は2011年。共同で本を出そうという話は最初から話題にならず、2011.1.5パーティだけを開いた。40周年記念というのは照れるので「2回目の成人式」とした。

さて、50周年は、2021年1月。考えるだけでも恐ろしいが、それまでに本稿をベースに充実した『むくげの会50年誌』を発行したいと考えている。

■出版活動

すでに述べたがむくげの会は出版活動も盛んだ。通信は別として最初の出版は、全錫淡・崔潤奎著／梶村秀樹・むくげの会訳『朝鮮近代社会経済史』（1978.6、龍溪書舎、331頁、3300円、むくげ特価2000円）複数の人が翻訳すると訳語の統一などの問題があるが、梶村秀樹さんは大変だったと思う。

会発足後、朝鮮語学習7年目の私たちは苦勞した。特価とはなんぞやとお思いの方もおられると思うが、在庫がまだあり特価販売中ということだ。以下、同じ。

次の出版は、『趙世熙小品集』（1980.3、500部、700円、特価なし、送料は会負担）だと思う。当時のセンター朝鮮語講座・兪澄子先生クラスのテキストがとてもおもしろいということで出版することにしたものだ。韓国の趙世熙さんに翻訳許可をいただき発行した。マスコミでも取り上げられ初版500部がすぐなくなった。そして1981.6、2刷500部を作った。これがいけなかった。作り過ぎだ。まだだいぶ在庫が残っている。いまだったら趙世熙さんを韓国から招いて出版記念会をしていただろう。当時はそのような雰囲気はなく、今となっては非常に残念だ。1992.4に学生センター出版部から尹静慕作・鹿嶋節子訳・金英達解説『母・従軍慰安婦——かあさんは「朝鮮ピー」と呼ばれた』を出版したときには尹静慕さんを招待しいっしょに広島旅行までしているのである。最近、趙世熙の作品が、私たちが翻訳していない作品も収録して出版された。趙世熙（チョ・セヒ）著・斎藤真理子訳『こびとが打ち上げた小さなボール』（2016.12、河出書房新社）だ。今回の出版が私たちの『趙世熙小品集』があつてこそという手紙を出版社からいただいたが、ありがたいことだ。「都市開発が急速に進むソウルの「こびと」一家をめぐる怒りの物語。刊行から30年、韓国で今も最も読まれる130万部のロングセラー。知られざる世界的名作がついに邦訳。解説＝四方田犬彦」というコピーがつけられている。



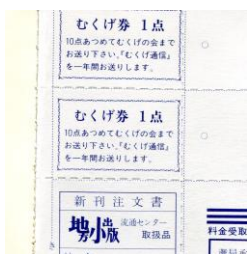
『むくげ愛唱歌集』（むくげの会、1985.6、800円、コピー版も800円）もセンター朝鮮語講座関連だ。朝鮮の民謡、大衆歌謡、童謡、歌曲、北朝鮮のうた107曲を厳選して収録した。1985.6.15には出版記念パーティを開いている。スピーチもそこに歌い続け、三次会までやって107曲すべて歌ったことを覚えている。朝鮮語学ぶ人はこれらの歌を知っておくべきだろうと考えて作ったものだ。各地の朝鮮語講座でよく売れた。当時、ハングルワープロが出始めた時で、センターにも試作機が貸与され、私はすごいなすごいなと思いながら歌集の目次、索引などを作った。センターを訪問した韓国カトリッ

ク農民会の方がこの本を気に入って、でも北朝鮮の歌は問題になるな、と言ってその部分を切り取ってもってかえられた。朝鮮語講座の宴会には必携の本であった。

30周年の論文集『新コリア百科』(2001.2)はすでに述べたとおりである。

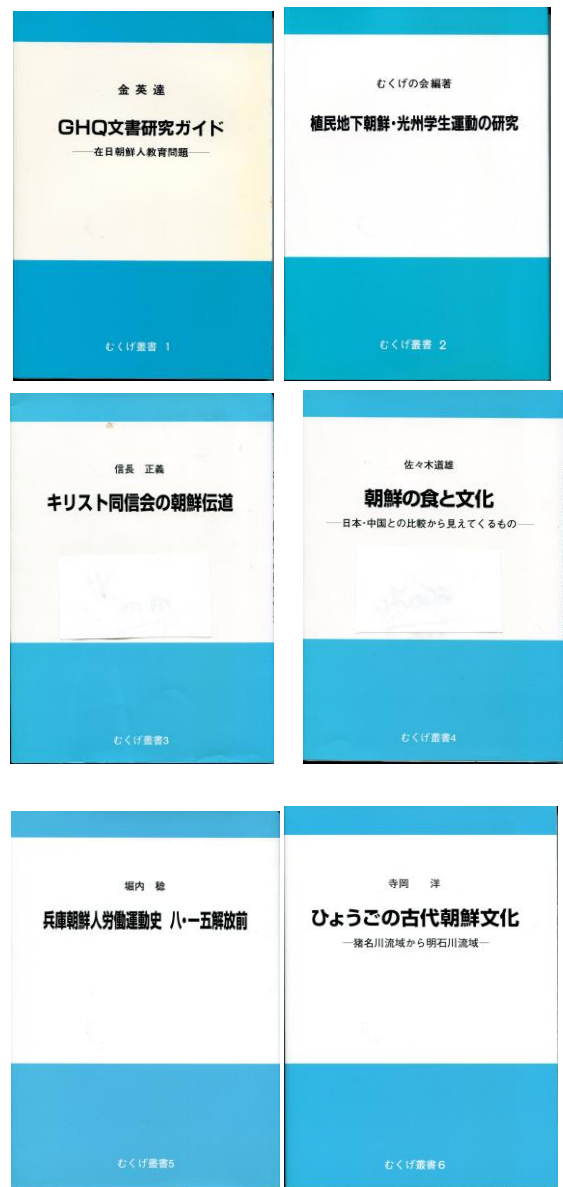


延辺朝鮮族自治州概況執筆班著・大村益夫訳『中国の朝鮮族』(むくげの会、1987.12、A5、233頁、2800円、えーい、これも在庫がある、特価1000円)も思い出深い。大村益夫さんが話を持ち込まれたのか、延辺の問題に取り組んでいた佐久間さんが引っ張ってきたか、別の人が大村さんにむくげの会を紹介したか今となっては記憶が定かでない。が、自費出版しようということになって発行したものだ。現在は出版事情が悪く出版しようとするれば自身がそれなりの費用負担をする必要があったのであるが、当時財政が潤沢であったむくげの会を誰かがねらったのかもしれない。私自身はこの本を出版したことで出版社社長として延辺の学会に招かれて初めて延辺を訪問した。招かれたといっても招待状だけ、私は学生センターに無理をいって出張にしてもらい旅費もだしてもらった。楽しい旅で、学会にはほとんど出席しないかわりに？白頭山に登った。『季刊三千里』の私の投稿をご覧になり手紙をいただいたことからペンフレンドとなった延辺の元独立運動家・柳東浩さんといっしょだった。ほんとに楽しかった。



もうひとつ体系的な？出版に「むくげ叢書」シリーズがある。第1冊目は金英達『GHQ文書研究ガイド 在日朝鮮人教育問題』(1989.7、A5、128頁、1000円、むくげ叢書は基本的にA5版)。1年に2冊ずつ発行の計画をたて、5年で10冊を発行するつもりだった。この本には、末尾にこんなものがついている。10点ためると新刊を1冊もらえるというものだ。まともに集めようとした人はいないと思うが、RAIK(在日韓国人問題研究所)の佐藤信行さんから面白いとほめられたことを覚えている。

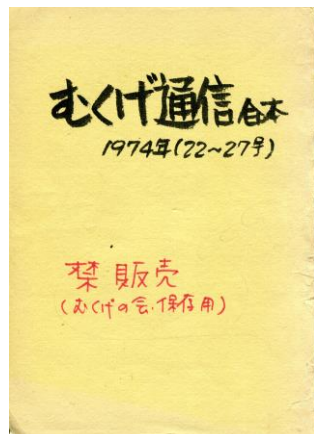
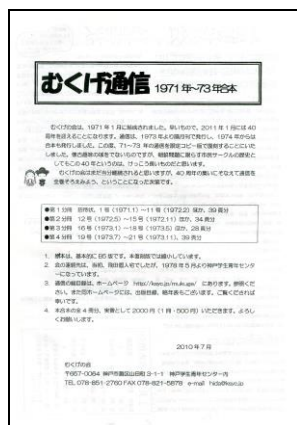
その後、以下のように6冊(2012.5)まで刊行した。1冊目(1989.7)から13年、このペースで出版すると10冊目はいつでるのであろうか。財政的に裕福であった時期は、会員は売れなくても原稿さえ書けば会の費用で出版する権利があるということになっていた。が、それも早いもの勝ちで今後の発行は各自印刷費負担とくことになっている。そのため、余計に続編がでないのかも知れない。



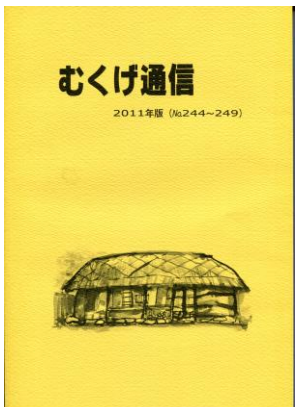
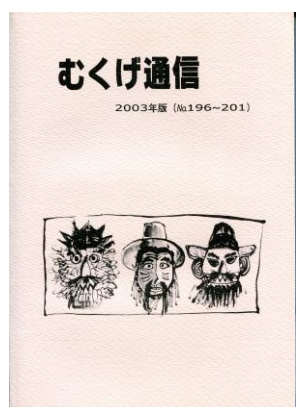
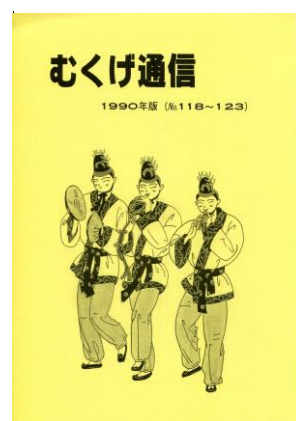
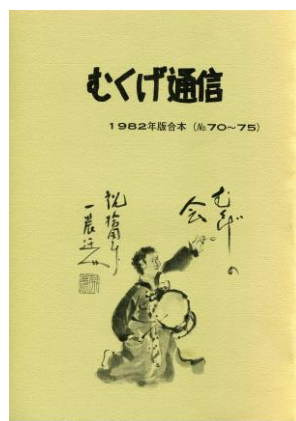
●むくげ叢書② むくげの会編著『植民地下朝鮮・光州学生運動の研究』(1990.11、162頁、1500円)
 ●③ 信長正義『キリスト同信会の朝鮮伝道』(1996.4、279頁、1500円、品切れ)
 ●④ 佐々木道雄『朝鮮の食と文化—日本・中国との比較から見えてくるもの—』(1996.4、235頁、1800円、品切れ)
 ●⑤ 堀内稔『兵庫朝鮮人労働運動史 八・一五解放前』(1998.10、248頁、1800円)
 ●⑥ 寺岡洋『ひょうごの古代朝鮮文化—猪名川流域から明石川流域—』(2012.5、248頁、1000円)

現在計画中の叢書もあるが、諸般の事情により発表は控えさせていただく。なにがなんでも 10 冊までたどり着きたいものだ。

■ 「むくげ通信」の発行



1971 年～73 年は合本がなかったが復刻版を作った。むくげの会の前身の差別抑圧研究会の呼びかけ文も収録されている。1974 年版はおそらく 20 冊程度手製で作ったものでこれは会の事務所に保存している禁帯出のものです。



通信は、隔月刊（奇数月）の最終日曜日が発行日だ。初期の事務連絡的な通信は別として、なんと、1995.1.17 の阪神淡路大震災のときに合併号をだしただけで定時発行が守られているのである。

1 号（最初は「無窮花通信」、1971.1）は B5、1 頁。2 号（1971.1.25）も 1 頁、4 号（1971.3.30）には同年の 3.1 集会での姜在彦先生の講演録が掲載されている。頁数は、いろいろだったが 18 号（1973.5.6）あたりから毎号 28 頁、それがほぼ現在まで至っている。B5 版縦書きが 159 号（1966.11.24）まで続き、1997 年 1 月号（1997.1.26）から B5 版横書きに、そして、2011 年 1 月（2011.1.30）から A4 版に変わっている。

この間、ガリ版からファックス版（TEL/FAX の FAX ではなく鉄筆のかわりに電気で版をつくるもの、分かるかな？）からリソグラフ印刷機になった。A4 版となった 244 号（2011.1.30）からカラー印刷ができるようになり、みんなこぞってカラーの写真を載せるようになった。そして、昨年 9 月からは、センターが「製本+ホッチキス」をしてくれる印刷機が導入され印刷風景が様変わりしている。



2013 年慶州・釜山合宿、林オンギュさんと釜山外国語大学の学生たちと

むくげ通信発行の原稿は自己責任だ。最終日曜日の印刷開始時間（1 時か 2 時）に自身の完全原稿を持ってくるのである。この原則を破ったものがかつて 1 名いたような記憶もある。やむなく後日印刷日を設定したのではないかと思う。この完全原稿を印刷開始までに持参するというのは相当なプレッシャーである。どの 1 頁が欠けても発行できないのである。（と、このように書いたが 2、3、4 度？、原稿が来ず、初期のころは佐久間さんが急遽穴埋めをしてくれた。むくげの会がとりあげられた新聞記事を貼りつけたこともあったような・・・）

むくげ通信は一年分（6 冊）をまとめた合本を発行している。価格が微妙で、年間購読料より安くすると購読者が減るのではという心配もあって、それなりの価格設定を考えている。現在は年間購読料が送料とも 1800 円（一部は 200 円）、合本代は 1100 円としている。ある時期まで合本を 200 部だしていた。合本を印刷所に依頼して作ると結構なお金がかかる。そこで、印刷時に合本用 200 冊を保存しておくのである。それはホッチキスをせずにおき、新たに印刷した目次等を加えて製本屋にもちこむのである。1976 年版ぐらいまでは糊付／製本まで私たち自身でしていた。最後は裁断屋にもっていく（化粧断ち）が、製本屋で、ホッチキスが残っていて裁断機の刃が欠けて大目玉をくらったこともある。70 年代のこのような合本の在庫がなくなり韓国でコピー版を作ったこともある。韓国では修士論文は 100 部程度印刷して提出することになっているので、印刷・製本屋が発達しているのである。釜山の友人がまかせとけというので何年分か依頼し、彼が飛行

機会社の友人に頼み込んで輸送費なしに伊丹空港まで持って来てくれたのである。迎えにいったワゴン車が重い合本にミシミシいっていた。

80年代には製本を印刷屋に依頼した。そして部数も2000年ころから100部にしている。70年代には、新宿の模索舎などにも合本をおいていたが結構売っていたのである。最近、もうひとつだが、定期購読をしてその都度読み、さらに合本を買って保存するというのがあるのではないかと。どうだろう。

1976年版以降で、1977年、1978年、1987年をのぞいて在庫がある。価格は、1976年600円、77～80年700円、81～85年800円、87年以降は1100円となっている。これもまとめ買い特価をつくるので問い合わせしてほしい。むくげ通信も貴重な資料とみてもらえることもあり、韓国民主化運動保存会はじめ韓国の研究機関から依頼がくることもある。そんな時にはおしげもなく合本セットを贈呈している。これは今後も可能だ。

通信の総目次は会のホームページにある。なにしろけっこうな分量の通信だから、朝鮮に関してはなんでも(?)書いてある。朝鮮関係でインターネット検索したらこの総目次にいき当たることが多いらしい。わりと問い合わせがくる。一つでも読みたい原稿があれば合本を買って、と一応はいうのだが、コピーして送ってあげたりする。最近、その頁をPDFファイルにしてホームページに張り付けることもある。金英達の記事などは問い合わせも多く、彼のずいぶん以前の文章をだいたいホームページに張り付けた。総目次をみれば、リンクがはってある。

以前、私や寺岡さんは、個人的にむくげ通信を友人に送ったりしてた。が、最近ホームページに張り付けて、そのことを友人にメールで知らせるようなことになっている。販売政策上は問題であるがまあこんなもんだらう。ホームページへの貼りつけが特に多いのは山根さん、寺岡さんそれに私だろうか。

■ グルメの会

よく飲み会をしているといわれるむくげの会だが、1998年1月から、ほぼ2か月に一度、「グルメの会」を開いている。第1回目は1998.1.25、韓国家庭料理「玉一」(大阪市天満)だ。韓国料理といえば焼肉という時代が長かったが、焼肉でない韓国家庭料理的な店をさがして訪ねて、食べて飲むというのがグルメの会である。その都度通信に報告を載せているので読者のみなさんはご存じのことと思う。グルメの会の記録も山根さんによって整理され、ホームページに掲載されている。

ほぼ2か月に一度、2016.11.25、「元祖平壤冷麺屋本店」(長田)まで計86回もたれた。「〇〇がおいしかった」といえば出かけた。初期のころは京都、新大阪あたりまで出かけたが、最近はだんだんおっくうになり、ええとこ(神戸弁です)阪神間、遠くて鶴橋という感じである。グルメの会で気になる

のは、私たちが訪問した店の閉店率がけっこう高いことだ。友人の店が開店したらすぐ訪問という具合に多くの店に行ったが、その中で閉店した店も多いのである。むくげグルメの会をすれば閉店するという風評が広まらないことを願っている。ホームページで86店舗をご覧になって、美味しい▽▽がない、と思われる方はぜひ紹介してほしい。

私が特に印象に残っている店は以下のとおりだ。

- 1998.1.29 「紅梅苑」(西宮市甲子園)、
- 1999.9.12 「映ちゃん」(神戸市JR兵庫駅)
- 2001.5.19 「イエット」(新大阪)
- 2002.3.16 「DURUMI」(六甲道駅)
- 2003.11.30 「全州元町店」
- 2004.11.28 「福ちゃん」(鶴橋)



(「福ちゃん」)

- 2007.7.21 「百濟(くだら)」(三宮)
- 2008.5.10 「すっから ちょっから」(長田)
- 2009.11.29 「慶州」(JR立花)
- 2010.5.15 「こさり」(西宮)
- 2011.5.21 「釜山」(高速長田)
- 2011.10.1 「林賢宜先生の韓国料理の教室で特別のグルメの会」
- 2012.9.30 「福一」(鶴橋)
- 2013.5.18 「長田のクマさん」
- 2014.7.27 「サムギョプサル やみつきのした三宮店テラス」(三宮)
- 2014.9.28 「韓国料理あんじゅ」
- 2015.1.25 「ナドゥリ」
- 2015.10.31 「新明洞」

なにしろ86回、店の名前をみても何も思い出せない店もある。大阪の会ときには姜在彦先生や梁永厚先生が参加してくださることがあり、先生方に会うために参加するメンバーもいる。また、上記の店でも閉店した店がだいたいある。



あと、むくげの会の歴史となると「東亜日報を読む会」「11.22 事件冊子」「教科書と朝鮮」の翻訳作業が大きいですが、これも次回の正式の「記録」に書き加え会の完璧な?記録としたい。